修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　鴻田好通
〒102-0074
東京都千代田区九段南
2－6－8九段南ビル
☎03（5275）6651
http://shugakuryoko.com
e-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団です。

インターネットの活用による修学旅行の充実と発展を目指して

『第1回修学旅行ホームページコンクール』作品募集を開始

財団法人全国修学旅行研究協会（谷合良治理事長）は、今後の修学旅行の充実・発展と、これに関連するインターネットのさらなる活用促進を目的として、「第1回修学旅行ホームページコンクール」（主催／全国修学旅行研究協会、後援／全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、日本私立中学高等学校連合会）を開催する。これに先がけ、全国の各学校による修学旅行の取り組み内容について、学校ホームページ内に掲載、紹介されているものを対象として、本年9月1日より募集を開始した。コンクールは応募作品の中から優秀作品を選出し、特色ある修学旅行の最新事例集として、今後の学校現場における修学旅行実施のための一助とすべく、全修協が運営するホームページ『修学旅行ドットコム』により広く発信し、紹介を行うものである。

修学旅行の多様化に伴い、今後ますます有益な情報の提供が期待される現状において、各学校の様々な努力、工夫による優れた旅行事例は、計画・実施・事前事後の学習活動の上でも大いに参考になりうる素材であると考えられる。

申し込みに関する詳細は、全国修学旅行研究協会ホームページ『修学旅行ドットコム』（http://shugakuryoko.com）にアクセスを。

●募集対象
全国の小・中・高等学校の学校ホームページにおいて学校実施の修学旅行に関する内容を掲載してあるもの。

●募集要件
平成12～13年度中に実施された修学旅行

●募集期間
平成13年9月1日（土）～11月30日（金）の3ヵ月間

●応募方法
応募は、原則としてインターネット上での申し込みによるものとする。全国修学旅行研究協会ホームページ『修学旅行ドットコム』内の「修学旅行ホームページコンクール募集要項」上に添付の申込書フォームに、必要事項を記入し、送信。

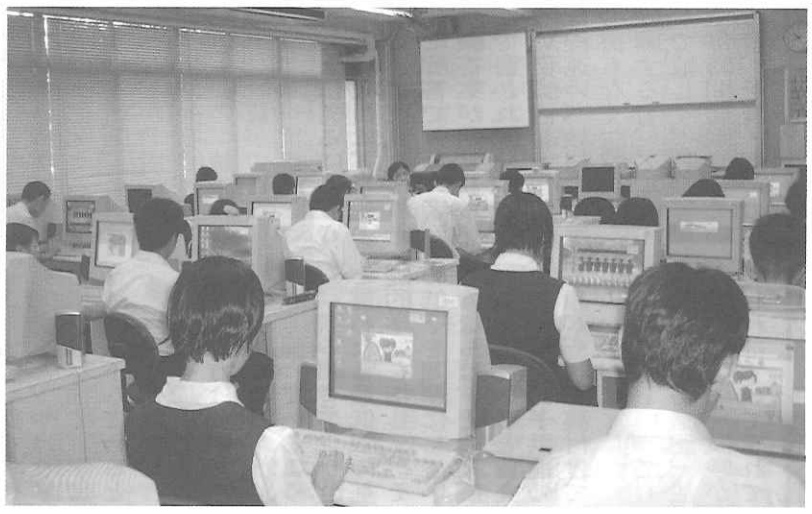
情報教育充実のための諸施策ならびにコンピュータ等の整備状況

進展する情報社会に対応すべく学校教育の中の各教科等において、コンピュータ等の積極的な活用を位置づけた新しい教育がまもなく始まる。学校では情報教育推進のためのコンピュータの整備も進み、その充実に向けて着々と計画を進めている状況が見られるが、ここで整備の推進の経緯と整備状況をまとめてみた。

Ⅰ　情報教育推進充実を図るための諸施策

1　文部科学省施策

文部科学省は公立学校における教育用コンピュータの整備を平成6年度から11年度までの6年間で計画的な整備を推進してきたが、新しい学習指導要領に対応するため、平成12年度から17年度を目標に、新たな整備方針に基づき、計画的な整備を加えた。（3面に続く）



コンピュータ室でパソコン操作を学習。校内無線LANによるネットワークシステムは先生方の手づくりで、パソコン利用度は高い。東京都台東区立忍岡―しのぶおか―中学校

新学期のスタートにあたって

＝主　張＝

平成13年度の前半がおわろうとしている。

公立中学校の大半を占める春季の修学旅行も無事終了した。各中学校では、実施の結果を、学校としての評価、生徒自身の学習や思い出などをそれぞれの工夫の中でまとめていることと思われる。全修協は、今年度の修学旅行は平成14年度以降を意識したものであるべきということから、いくつかの視点を述べてきた。新しい教育課程を意識した課題や試みの結果はどうであったろうか、また、新しい教育活動につながるものが得られたかどうか、今年度の修学旅行の徹底した評価・検証が望まれる。そこから、新しい方向が生まれてくると考える。

とはいえ、無事故、安全・快適、楽しい思い出や感動という視点からの評価・検証も大事である。修学旅行の楽しさや感動や思い出が学校内外に広まり、受け継がれていくことは学校教育活動として極めて大事である。それがエネルギーとなって、学校生活や生徒個々の学習のバネになり、文化祭などにおける修学旅行のまとめや発表に、そしてさらに、インターネットの充実拡大に発展していって欲しいものである。

修学旅行の実践の成果の発表、研究の場として、中学校の全国修学旅行研究大会を11月に大阪市で、関東地区大会を千葉県柏市で公立中学校修学旅行委員会と共催する。実践の交流の場であると同時に、新しい方向を目指す学校の取組みがこの中から生まれてくることを期待したい。

全修協の修学旅行ホームページコンクールは、全国の国公私立小・中・高等学校を対象に、9月新学期にあわせて募集をスタートする。改めて応募を呼び掛けたい。これに応募することを通して、修学旅行の思い出や感動を、学習上の特色や工夫の再確認など、評価・検証がさらに深まるであろう。また、自校の修学旅行を客観視することにもつながろう。積極的なアプローチを期待したい。

全修協修学旅行ホームページへのアクセスは増加の一途をたどり、4月の時点では一万五千件を数えていたが、現在、それが二万千五百件となっている。このことは、修学旅行情報の入手先としての全修協の存在の大きさを示すものであるが、それに応える情報の精選、求められる情報の提供への努力と積極的な発信への要請である。特に、全修協自らの情報、いわゆるオリジナル情報をどう発信できるかということが重要となる。そういうことでは21世紀修学旅行プロジェクト研究の成果は大きな意味を持つ。現在、21世紀修学旅行研究会議の答申を踏まえ、全修協としての21世紀の修学旅行のあり方について、学校、教育行政、修学旅行を支える旅行業者などへどう発信していくか、その行動計画を具体化していく。

国際化の進展の中での海外修学旅行を実施する高校、指向する高校は年を追って増えているが、学校は、これまでの実績も含めて、その内容・質の更なる向上を求めている。例えば、交流相手校と自校との適合性など、学校の求める情報はそれぞれに幅広く細かいものがある。全修協は、若い世代の国際理解や国際的な視野の拡大を図ることを基本として、海外修学旅行・国際交流の充実発展に取り組んできた。今年度は、韓国修学旅行説明会を静岡市で、マレーシア・シンガポール海外修学旅行セミナーを東京で開催したが、今後、海外修学旅行の内容・質の充実・発展に寄与する努力とともに、海外修学旅行・国際交流の更なる進展に努めたい。

風紋

新学期、元気に登校し、友達や先生に会い、喜びに浸っている姿が目に浮かぶ。しかし、そうでない子どももいる。▼文科省の学校基本調査によれば、不登校の児童生徒は、なお増加傾向にあり、昨年度30日以上休んだ児童生徒の数は中学校では38人に1人の割合とか▼関東大震災記念日に大規模な総合防災訓練を実施する自治体は多い。学校でも防災訓練を行なうが単なる避難訓練だけでなく、災害時の家庭・地域における役割分担や心構えを指導する必要があろう。奉仕やボランティア活動への心構えや役割や自覚を深めたい▼二百十日、二百二十日は台風の当り日として恐れられている。ちょうどこの頃が稲の開花期に当るため農家では無事に済むこと祈った▼今年の稲作は高温続きもあって実りも早く、豊作が見込まれている。米の市場価格下落対策といわれるが、一部、青刈りが提起されている▼昔、青田売買というのがあった。収穫高を見込んで、青田のまま稲を売買する。転じて、人材確保のため採用の時期を早める青田買。ある意味では豊かな実りへの祈りがあった。青刈りは、出穂前に稲を刈り取ってしまうのである「青刈りの米百俵のまぼろしや・好」（鴻）

教育の窓

「学力」論議に思う

東京農業大学教授
元文部省主任視学官
渡部邦雄

昨今、いわゆる「学力」低下に関する話題が多い。新聞、テレビ、雑誌などが若者の「学力」低下を嘆き、漢字が書けない、読めない、簡単な計算ができない、一般常識や教養がないなどと伝える。

大学教員は、学生の中に小学校算数すら十分に解答できない者、試験答案が殆どひらがなで書かれ、句読点もない例（内容も正解には程遠い）、教科書や参考書もなく（購入せず）受講する者、アルバイトで忙しく、睡眠不足で毎時間居眠りしている者、予習・復習の意味が分からない者などの事例には事欠かないと語る。

このような例を多数見聞すると、やはり学力低下は本物で、学習意欲も低下していると考えざるを得ない。

しかし、「学力」そのもの捉え方は多様であり、立場により学力の中身も異っているようだ。「読み書きそろばん」と言われる最低限の基礎的学力を指して、その低下を問題にしているのならば、その指摘は的を得ていると言えよう。現実の子供達の実態がそれを裏付けているからだ。

一方学力といっても受験のための暗記、注入型の勉強で、試験が終わればすべて忘れてしまう剝落型の学力は無意味であり、その後の学習や生活に生きて働く力こそ本物の学力だとする意見もある。

私は学力を「新しい学力観」や「生きる力」に言うそれと考えたい。単なる知識、理解、技能だけでなく、思考力、判断力、表現力、興味・関心、意欲、態度などを包含した総合的な力であろう。試験が終わったらすぐに剝落するような、知識量を問題にする「学力」ではなく、基礎・基本をしっかりと習得し、その上に立って主体的に思考し、判断したり、創造的に物事に取り組んだりすることができる力ととらえたい。

学習指導要領はこのような学力を追求しているのである。ところが、「学力」低下の原因や背景は、学習指導要領にあるとの論議があり誠に残念に思う。

学習指導要領は国の学校教育の大綱的基準として、ミニマムエッセンシャルズを示している。学校週五日制の下、授業時数の削減と内容の精選を行い、ゆとりある教育を通して、「生きる力」の育成を目指したのである。

もしゆとりや内容精選を避け、レベルの高い教科書を求めたとしても、それで学力が向上するのか疑問である。「七・五・三」と称されるように、小・中・高校の児童生徒が学習内容を理解している割合は、学年が進行するにつれて減少している現実を忘れてはならない。生徒がレベルの高い学習内容を未消化のままに、形式的に修了したとしても、何ら学力としては身につかないのである。ゆとりの中で各人に基礎・基本の確実な定着を図ることが先決であろう。

余力のある生徒には個性の伸長を目指し、発展的学習を用意するなどは当然である。

いずれにせよ、今日の学校現場の実態を抜きにした学力論議は建設的ではないと考える。むしろ、学力低下の要因は、家庭や社会にあると思うがどうか。

全入に近い高校、大学進学、フリーターやパラサイトシングルの増加、せつ那的な生き方の横行などを横目で見ている子供達には、勉強の必要性が理解できないのである。

テレビやゲーム、ブラブラ遊びなどに大半の時間を過ごし、勉強時間が殆どない実態を見ずに、「学力」低下を学習指導要領のせいにしても意味はない。

毎日、数時間は机に向かう習慣の形成、学生は名前の通り学問に専念するなど当たり前を当たり前として実行させることが解決に近づくことになるのだ。

人と自然との真の共生を学び、考える

第2回『高校生自然環境サミット』開催

去る8月1日（水）～3日（金）、全国15校（生徒・教員123名参加）の高等学校による「第2回高校生自然環境サミット」（主催：高知県教育委員会、高知県立四万十高等学校／後援：大正町、十和村）が開催された。

環境学習への関心、期待は近年ますます高まりを見せ、昨年の尾瀬地区での開催に続いて、〝最後の清流〟四万十川を間近に望む四万十高等学校を会場としての開催となった。

高知県立四万十高等学校は、平成11年度から自然環境コースを新設し、四万十川の流域という恵まれた立地条件を活かし、定期的な水質調査など、環境学習に関する様々な実践活動と郷土学習にも取り組んでいる。

サミット会期中は、高知県知事・橋本大二郎氏を講師に迎えた基調講演をはじめ、四万十の歴史と現況についての事前学習と、実践的な自然体験活動・情報交換等、様々な活動を行った。

また、昨年の尾瀬サミットに続き、今回の試みのまとめとして、将来的な活動方針となる「高校生自然環境宣言」を新たに採択し、環境問題へのより一層の取り組みに向けて努力を継続していくことを確認し、全日程を終了した。

この行事は毎年の実施が予定されており、将来的な展開が期待されている。

【第2回高校生自然環境サミット】

◎趣旨

自然環境サミットは、環境教育を積極的に推進している全国の高等学校に呼びかけ、「自然との共生」をメインテーマとして、時代を担う高校生自らが、自然との豊かなふれあいを体験し、自然と人間との関わりについて考えるためのものである。

◎基本方針

（1）すばらしい自然環境を舞台に、雄大で美しい景観に触れ、自然のたくましさややさしさを体験する。

（2）自然に親しむ様々な活動を通し、かけがえのない自然を大切にする心を養うとともに、この豊かな自然環境を次世代に継承していくことを考える。

（3）高校生が自分たちの体験をもとに、今後の環境学習の在り方について意見を出し合い、その主体的な実践活動の場として、手作りのイベントを計画・運営する。

◎概要

［参加校］

群馬県立尾瀬高校、北海道立標茶高校、青森県立金木高校、千葉県立小金高校、東京女学館高校、昭和第一学園高校、目黒学院高校、横浜隼人高校、神奈川県立鎌倉高校、神奈川県立初声高校、不二聖心女子学院高校、三重県立朝明高校、佐賀県立唐津北高校、鹿児島県立屋久島高校、高知県立四万十高校

［日程］

第1日目

○基調講演（講師：橋本大二郎高知県知事）

○四万十学習（四万十の自然、歴史についてのビデオ学習及び解説）

○夕べの集い（椿原川河原での親睦会、火振り漁見学）

第2日目

○自然体験活動（四万十川水質調査、カヌー体験）

○夕べの集い（野外での調理体験とレクリエーション）

第3日目

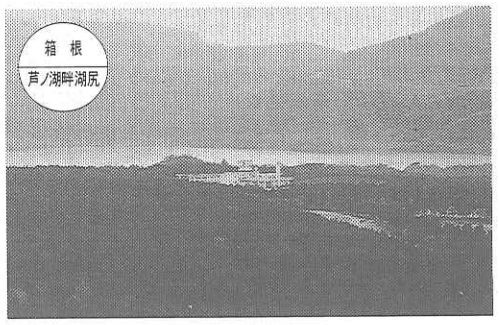
○研究・実践発表（四万十高校他代表4校による環境学習への取り組み状況の発表）

○情報・意見交換

◎四万十・高校生自然環境宣言（全文）

『「人と自然との共生」

このテーマは、人類が地球上で生きていくにおいて永遠のテーマです。その昔「人」は「自然」に依存しながらも、バランスを保ち、共生していました。しかし人々が、便利さやバランスを無視したエゴの結果、世界中で自然環境破壊が繰り返されるようになってきました。そのような21世紀に、高校生がこれから果たしていかなければならない責任。それを考えるために、高校生自然環境サミットは始まりました。そして今回「人と自然との共生」というテーマで、「最後の清流」と呼ばれ、今日まで比較的「人」と「自然」とが共生してきたここ四万十川に集いました。3日間の日程の中で、「人」と「自然」との今までの関わり方と、これからどのように関わっていかなければならないかということを学び、考えました。今回のサミットの集大成として、私たちのこれからの役割を、「四万十川を最初の清流から最後の清流に」というメッセージにして、発信したいと思います。私達は、全国でこのメッセージを伝え、それぞれの地域にあった形で、第2・第3の「人と自然との真の共生」を蘇らせるとともに、主体的に自然環境問題に取り組み、訴えていくリーダーになることを誓い、「四万十川・高校生自然環境宣言」とします。』



湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

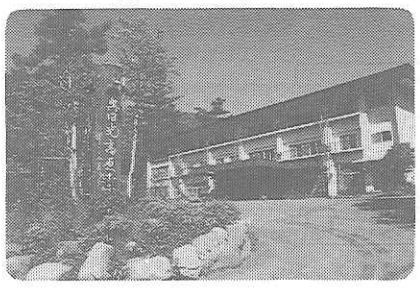
豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

箱根高原ホテル
〒250-0500 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595㈹ FAX.(0460)4-9488

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…
魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。

壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL (092) 281-0831
FAX (092) 281-0444
URL http://www.mapion.co.jp

●修学旅行／林間学校／スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園
内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／
高校生450名収容／大浴場あり

奥日光高原ホテル
〒321-1662 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)